

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 124 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 124 回：2025 年 10 月 15 日（水）10:00～11:45

2. 場所 Web 開催 (Webex)

3. 出席者

(出席委員) 牟田主査, 桐本副主査, 高橋 (拓) 幹事, 丹野幹事, 橋本幹事, 佐藤, 羽佐田, 多和, 浦上, 塩田, 小森 (11 名)

(常時参加者) 寺島, 根岸 (2 名)

(委員候補) 越智

(常時参加者候補) 濱口, 福原, 田邊, 沼田

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-124-1 第 123 回 レベル 1 PRA 分科会議事録

P4SC-124-2 人事について

P4SC-124-3 標準委員会 廃止投票結果

P4SC-124-4-1 パラメータ推定標準改定案のレビュー

P4SC-124-4-2 パラメータ推定標準改定案 (レビュー反映)

P4SC-124-4-3 パラメータ推定標準改定案の中間報告について (案)

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 11 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。また, 配布された資料が確認された。

(2) 前回議事録確認

資料 P4SC-124-1 により, 前回分科会の議事録の確認を行った。誤字について修正する。

(3) 人事について

資料 P4SC-121-2 により, 上田常時参加者 (原子力規制庁) と横塚常時参加者 (原子力規制庁) の登録解除が報告された。また, 越智委員候補 (中部電力) の委員新任と濱口常時参加者候補 (原子力規制庁), 福原常時参加者候補 (原子力規制庁), 田邊常時参加者候補 (原子力規制庁), 沼田常時参加者候補 (原子力規制庁) の登録が承認された。

(4) 旧標準の廃止について（標準委員会投票結果）

資料 P4SC-124-3 により、レベル 1PRA の旧標準の廃止に関する標準委員会での書面投票について報告があり、投票の結果、廃止が決議された。今後の廃止にかかる対応は標準委員会での審議による。

(5) パラメータ推定標準の改定について（分科会レビュー反映確認）

資料 P4SC-124-4-1 及び 4-2 により、パラメータ推定標準改定案に対する分科会レビューへの対応について審議を行った。また、資料 P4SC-124-3 により、パラメータ推定標準の改定に向けた中間報告案の準備について紹介があり、今回改定の趣旨概要を反映していくこととなった。主な議論は次のとおり。

- ・「一般データソース」「一般パラメータ」等の用語の定義について、当該プラントのデータを除外しない定義とし、従来用語との混乱を避けるため、「汎用データ」「汎用パラメータ」として再定義する提案があった。用語としては再定義のものとし、従来用語との違いについて注釈などで解説することを検討する。また、再定義の英文表記について、NUREG などとの違いが出るため、合わせて検討とする。
- ・「運転状態」「運転モード」「運用」の用語の定義について、「運用」に関しては一般的の意味で用いられているため、定義からは除外とする。「運転状態」の定義が機器限定となっているが、本標準内では機器に限り使用していること、プラントに関しては「運転モード」を用いることを確認した。
- ・「使用」「供用」の用語の使用について再確認した。JIS 等では機能可能な状態をアップ状態、不能な状態をダウン状態としており、ダウン状態には機器自体の故障とサポート系の故障が含まれる旨の指摘があった。アップ状態に対応する用語として「使用」が考えられることから、基本的に「使用」を用いることとした。「供用」については、in-service の意の場合として使い分けを行う。
- ・「アンアベイラビリティ」の定義に関する修正定義案について審議した。一般的にアンアベイラビリティには平均的なものと瞬間的なものがあるが、PRA で用いるアンアベイラビリティは時間平均的なものであることを確認した。また、修正定義案について各自持ち帰り確認することとした。

(6) 今後の予定について

次回分科会までに標準改定案のレビュー反映状況を確認するため、別途検討依頼を行う。

次回分科会は、年明 1 月中一下旬を目途に改めて調整することとなった。

以上